

特殊第4級アンモニウム塩による各種ウイルスに関する試験データ

iAMZウイルスコントロールコートそれぞれに含まれる、特殊第4級アンモニウム塩によるウイルスの総数に関する状況を示すグラフです。縦軸はウイルスの数（10の乗数にて）を表し、横軸は時間の経過（0分～10分後の状況を示します）を表します。試験データからは短時間の内に試験対象のウイルスの総数に変化があった事が読み取れます。

〔試験に使用したウイルス〕

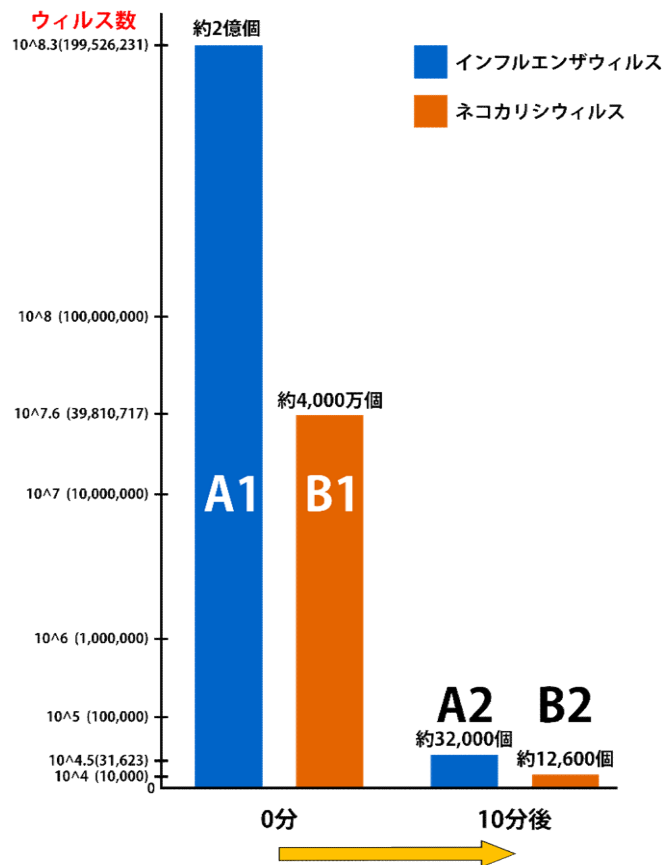
グラフA：インフルエンザウイルス = エンベロー膜を有するウイルス / 新型コロナウイルス代替。

グラフB：ネコカリシウイルス = エンベロー膜を持たないウイルス / ノロウイルス代替。

〔試験方法〕

50mm × 50mm のガラス板に特殊第4級アンモニウム塩を塗布。その上に上記ウイルス2種を接種し常温にて放置。接種10分を経過した後の各ウイルスの感染量に関する除去効果を測定。

抗ウイルス抗菌剤での不活化試験データ



グラフA：インフルエンザウイルス

A1 / インフルエンザウイルスの感染量（総数）： $10^{8.3}$ （10の8.3乗）= 約2億個。

A2 / 10分経過後、インフルエンザウイルスの感染量（総数）： $10^{4.5}$ （10の4.5乗）= 約32000個：1 / 6300 に減少。

グラフB：ネコカリシウイルス

B1 / ネコカリシウイルスの感染量（総数）： $10^{7.6}$ （10の7.6乗）= 約4000万個。

B2 / 10分経過後、ネコカリシウイルスの感染量（総数）： $10^{4.1}$ （10の4.1乗）= 約12600個：1 / 3174 に減少。

試験結果

グラフA：10分後に、インフルエンザウイルス感染量を約1/6300以下に減少させた。

グラフB：10分後に、ネコカリシウイルスの感染量を約1/3200以下に減少させた。